

ウイルス学会関連研究集会紹介

1. 第12回あわじしま感染症・免疫フォーラム報告

立川(川名) 愛

東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野

東京大学医科学研究所と大阪大学微生物病研究所が中心となり、2001年から淡路島夢舞台国際会議場にて開催されてきたあわじしま感染症・免疫フォーラムも、今年で12回目を迎えることとなりました。本年からは新たに京都大学ウイルス研究所、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、長崎大学熱帯医学研究所にも主催団体としてご参加いただき、さらには、文部科学省科学研究費・新学術領域研究「ウイルス感染現象における宿主細胞コンピテンシーの分子基盤」領域にも主催として加わっていただくことになり、日本のウイルス学研究の中心的役割を担う団体が結集して開催されました。

本フォーラムの最大の特徴は、ウイルス学、細菌学、寄生虫学等の感染症学を専門とする研究者と、免疫学を専門とする研究者が一同に会し、「病原体と宿主の相互作用」という視点から最先端の研究成果を発表し、それぞれのスタンスから議論するという点にあると思います。ウイルス感染に対する免疫応答を研究対象としている筆者は、例年ウイルス学会、免疫学会に参加していますが、当然のことですがいずれも「ウイルス」「宿主免疫」どちらかに重点が置かれています。それに対して、本フォーラムでは両者が対等な立場で、それぞれの一流の研究者により議論されるという、国内では唯一無二の機会となっており、さらには日頃なかなか触れる機会のない細菌学や寄生虫学についても理解を深めることができます。病原体は違っても共通する感染現象や免疫現象があること、逆にそれぞれの病原体に特徴的な現象があることも、このような機会ですべて知ることができるように思います。また、若手研究者の人材育成を一つの目的とする本フォーラムは、海外（アジア、



< Welcome party >

アフリカ諸国)から参加する若手研究者への旅費、宿泊費のサポートや、フォーラムに先立ちトレーニングコースを開催する等、若い研究者の皆さんが国籍、研究領域を越えてサイエンスを満喫できる機会となっています。

本年は海外からの参加者44名を含む約200名が参加され、28名の招待演者(うち海外から12名)による講演、一般演題から選出された18演題の口演とポスターディスカッション91題という、小規模ながら充実した発表構成となりました。岩本愛吉大会長によるOpening remarksに続き、ミネソタ大学のAshley T. Haase博士によるKeynote lectureでフォーラムの幕が切って落とされました。著明な病理学者であるHaase博士の「Insights from the SIV-animal model on how to prevent HIV-1 transmission to women」と題した、SIV感染ザルをモデルとしたHIV感染伝播と宿主免疫応答の相互作用に関する、美しい組織染色像満載のスライドによるプレゼンテーションは、本フォーラムのスタートを飾るにふさわしい印象的なご講演でした。一日目の夜にはWelcome partyが開催され、和やかな雰囲気の中、美味しいお料理を楽しみながら旧交を温めたり、自己紹介をしながら初めて会う研究者同士、話が弾んでいたようです。

2日目からは「Viral pathogenesis」, 「Bacterial pathogenesis」,

連絡先

〒108-8639

東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野

TEL: 03-5449-5338

FAX: 03-5449-5427

E-mail: aikawana@ims.u-tokyo.ac.jp

「粘膜免疫と感染」, 「オルガネラの進化」といった主に領域毎のトピックを中心としたセッションに加えて, 「構造から見た感染現象」, 「治療, ワクチンへの微生物の応用」, 「新興感染症に対する世界規模課題」といった, 領域横断的なセッションが構成され, 本フォーラムならではの領域の垣根を超えたディスカッションが繰り広げられました. その領域の専門家では考えつかないような, 斬新な視点からの質疑応答もあり, 興味深く感じることもしばしばでした. ポスターディスカッションも活気に満ちており, 高名な招待演者の先生を前に, 一生懸命説明をしている若い学生さん達の姿も見られ, 貴重な経験をされたことと思います. 3日目の夜には屋外にてBBQパーティーが開かれ, 満天の星空のもと, 海風に吹かれながらサイエンスの話に花が咲いていたようです. 私自身も多くの先生方とかしこまらずにお話しすることができ, 大変有意義な時間を過ごさせていただきました. 最終日, 河岡義裕先生によるH7N9型インフルエンザのパンデミックに関するご講演で幕を閉じた本フォーラム, 参加された皆様が多くのご知識や新たなアイデア, 新たな研究者間での交流, そして良い思い出を得ていただけたものと思います.

第13回目となる来年のあわじしま感染症・免疫フォーラムは大阪大学微生物病研究所の菊谷仁大会長のもと, 2014年9月23日(火)～26日(金)の日程で開催されます. 来年は初の試みで, 淡路島ではなく奈良県新公会堂



＜ポスターディスカッション＞

にて開催される予定ですので, ふるってご参加ください.

あわじしま感染症・免疫フォーラム

HP: <http://awaji-forum.com/about/about.html>

最後になりますが, 主催・共催としてご参加いただいた財団法人阪大微生物病研究会, 文部科学省科学研究費・新学術領域「マトリョーシカ型進化原理」, またご後援, ご寄附をいただいた諸団体, 企業の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます.